

まちの ニュース

大自然を楽しみながらラングラウフに挑戦

2008ラングラウフチャレンジinAPPIは3月16日、安比高原まきば特設コースで行われました。

ラングラウフは、ドイツ語で歩くスキーのこと。スキーの初心者から上級者まで、景色を楽しみながら自分のペースで歩く、冬季の生涯スポーツとして親しまれています。当日は、県内外から参加した約400人が晴れ渡る空の



安比高原の景色を楽しみながら、歩くスキーに挑戦しました



完走した喜びを仲間と共有する参加者

下でラングラウフに挑戦。開会式で安代小の小山田昇平くん(6年)、実由さん(4年)、千笑さん(2年)のきょうだいが「大自然を楽しみながら競技します」と選手宣誓しました。

号砲が鳴り響き、参加者は一斉にスタートします。競技は、それぞれの体調に合わせて3、5、10、15^分のコースを自由に選択できるフリーコース制。子どもの手を引きながらゆつくり歩く家族連れや、タイムを狙って全力で走る選手などは、それぞれのペースでコースを巡りながら、安比高原の雄大な自然を楽しみました。

地域の手作り劇団によるコメディ時代劇

第10回寺田公民館祭りは3月8、9の両日、寺田公民館で開催されました。同公民館講座の成果を披露する作品展などのほか、茶道教室「寺子屋」受講生の児童による見事なお点前が披露され、人気を集めました。

最後は、同公民館祭りのメインを飾る寺田喜劇団の公演「帰ってきた！水戸黄門(寺田城の巻)」です。同公民館のホールは超満員となり、熱気に包まれます。脚本、演出、出演など、すべてを地域住民が担当。寺田城を目指す水戸黄門一行をめぐる地域色豊かなコメディ時代劇に、客席は笑いに包まれました。



↑寺田喜劇団の「帰ってきた！水戸黄門(寺田城の巻)」の一幕

←同公民館の茶道教室「寺子屋」の受講生による見事なお点前が披露されました



地元の食材をふんだんに使った加工品展示

地元の農産物を使い、市の特産加工品の開発を進める八幡平市ふるさと研究会は3月11日、市総合福祉センターで加工品研究会を開きました。生産量日本一を誇るヤマブドウなど、市の特産品の消費拡大につなげようと工夫をこらした55品を展示しました。市内外の農業、観光関係者など約80人の参加者は、評価シートに意見や感想などを書き込みながら、菓子や漬物などの加工品を試食しました。



工夫をこらした加工品を評価する参加者

首都圏で市の知名度を高める物産と観光展

市は、首都圏での八幡平市の知名度を向上させようと2月29日から3月2日までの3日間、東京都の東京イースト21で八幡平市の物産と観光展を開催しました。

会場では、野菜や地酒、安比塗など市の特産品販売が大好評。また、観光PRコーナーでは、観光案内や移住・定住相談などを行いました。期間中、会場は大勢の人でにぎわい、八幡平市の魅力が大いに発信しました。



会場は大勢の人でにぎわいました

県石油商業協同組合盛岡支部と市は2月28日、災害時における応急対策用燃料や要員の確保についての協定を結びました。

調印式には、市内の会員企業などが出席。田村正彦市長と宮野朋士副支部長が協定書を取り交わしました。この協定により、災害発生時には市の要請に基づいて燃料や資機材を優先的に供給。対策要員を確保して協力することになります。



協定書を交わし、宮野副支部長と握手する田村市長

地震など災害時における燃料供給速やかに

人権擁護委員の高橋良二さん(柏台)は3月17日、松尾地区の保育所年長組の園児57人にコスモスの種をプレゼントしました。

高橋さんは、子どもたちの健やかな成長を願い、この活動を始めました。花を育てることで、思いやりのある子どもに育ってほしいとの願いが込められています。

平成9年からこの活動を開始。これまでに585人の卒園児に贈っています。



寄木保育所で花の種を送る高橋良二さん(写真右)

コスモスの種から思いやりの花を咲かせる

早く病気が治るように願いを込めた千羽鶴

田頭地区社会福祉協議会は3月3日、西根病院の入院患者を励まそうと、千羽鶴を贈りました。

これは、田頭小学校と平笠小学校の児童などが、丹精込めて折ったものです。「早く元気になってください」などとメッセージを添えた千羽鶴を贈呈。田頭小学校の児童は「ひなまつり」の歌を、平笠小学校の児童は「太陽のサンバ」のダンスをそれぞれ披露し、入院患者を元気付けました。



児童から心を込めた千羽鶴が贈られました

ゴルフ型ニュースポーツの市民王者決定戦



ゴルフ型ニュースポーツで心地よい汗を流す参加者

3月12、13の両日、田山グラウンドで第1回八幡平市雪上ゴルフチャンピオン大会が開かれました。

日ごろは別々にプレーしているゴルフ型ニュースポーツの愛好者、約80人が参加。12日はグラウンドゴルフ、13日にはパークゴルフを行い、種目ごとのほか、2日間の総合成績を競いました。

参加者は、白熱したプレーを見せながら互いの親ほくを深めました。

安代地区ひなまつりコンサートは3月3日、田山保育所で開かれました。

田山保育所のほか、安代保育所、同畑分園、新町幼稚園の園児と地域住民など約90人が、プロの生演奏に聞き入りました。コンサートは「アヴェ・マリア」で幕開け。園児たちは静かに演奏を聴き、「森の熊さん」と「ひなまつり」を一緒に歌いました。園児たちは「きれいな音で楽しかった」と笑顔を見せました。

本物の音楽に触れるひなまつりコンサート



プロ演奏家の四重奏を楽しむ園児たち



派遣研修に向け、意欲を高める平館高の生徒たち

海外派遣研修に参加する県立平館高校の生徒8人は3月5日、田村正彦市長を訪問し、オーストラリアでのホームステイや国際交流での意気込みを伝えました。

同校の海外派遣は、今回で17回目。3月15日から28日までの日程です。参加者を代表して泡淵安晃さんが「日本の文化を紹介して、交流を深めます」とあいさつ。参加者は、派遣研修で多くのことを学ぼうと意欲を高めていました。

異文化との交流を通じて多くのことを学ぶ

わしの尾の新酒と郷土の味覚に酔いしれる

「郷土の新酒と食のゆうべく地産地消2008」は3月22日、岩手山焼走り国際交流村で開かれました。

この催しは、3月に発足した市の第三セクター、八幡平市産業振興株式会社(社長・田村正彦市長)が地産地消を通

じて市の食文化を再認識してもらおうと開催したものです。

テーブルには、わしの尾の新酒とともにニジマスや杜仲茶豚などの市の誇る食材をふんだんに使った料理が勢ぞろい。参加者は、郷土の新酒と味覚を心行くまで楽しみました。



↑地元の食材を囲みながら、地酒を味わい、楽しいひと時を過ごす参加者

←会場内には、そばもちや山菜の天ぷらなどの屋台が軒を連ね、人気を集めました



郵便局と提携して市民サービス提供を図る



協定書を取り交わし、事務協定を締結

です。から柏台郵便局での業務委託を本格実施する予定です。試行期間として、9月末まで柏台出張所でも証明書交付を継続し、10月1日から柏台郵便局での業務委託を本格実施する予定です。

る中、佐藤企画部長と田村市長が協定書を取り交わし、事務協定を締結しました。この協定に基づく戸籍謄本・抄本、納税証明書、印鑑登録証明書などの証明書交付事務は、4月1日から開始。松尾総合支所と柏台郵便局を専用のファクスで結び、土日、祝日を除く平日の午前9時から午後5時まで交付を取り扱います。

郵便局株式会社と市は3月19日、柏台郵便局(角掛雄治局長)で住民票などの証明書を4月から交付する事務についての協定を締結しました。締結式で田村正彦市長は「市として初めての試みですが、地域住民に不便をかけないよう、スムーズに事務を行いたい」とあいさつしました。同社東北支社の佐藤秀穂企画部長は「行政と連携し、地域の皆さんの役に立ちたい」と話しました。



地域住民の見守る中で、締結式を開催しました